

EUビュスカン委員つくばセンター来訪

2003年12月5日、フィリップ・ビュスカン欧州委員会委員（科学・研究開発、共同研究センター担当）が、つくばセンターに来訪されました。

小玉副理事長から産総研の概要説明を行い、続いて地神糖鎖工学研究センター長から糖鎖工学研究、ナノテクノロジー研究部門 山崎主任研究員からDrug Delivery研究をそれぞれ紹介しました。その後、知能システム研究部門の研究室を訪問し、フランス語で挨拶をして歩行するヒューマノイドロボットのデモンストレーションを視察されました。最後にEU側から、「全ての説明について、どれもとても印象深い内容であり、大変感謝している。今後ヨーロッパの研究機関との協力を積極的に進めて欲しい。」とのコメントを頂きました。



産総研・水素エネルギーシンポジウム開催

2003年11月28日、機械振興会館ホールにおいて、産総研における水素エネルギーに係わる研究成果を広く一般の方々に紹介するため産業技術総合研究所・水素エネルギーシンポジウムを開催し、企業を中心に約200名の参加者がありました。



経済産業省及びNEDOからの挨拶、産総研の研究開発の概要紹介、横浜国立大学 太田教授およびトヨタ自動車株式会社 河合氏の招待講演の後、産総研の研究者から水素の製造、貯蔵、安全およびシステムに関する研究開発状況について報告しました。また休憩時間には、研究者と参加者が直接コミュニケーションする機会がもてるように、ポスターによる研究紹介も行いました。水素エネルギーに関してほぼ全ての分野について、精力的に研究開発を進めている我が国唯一の機関である産総研の特徴を紹介する事ができたと思います。参加者からは「来年も続けて開催することを期待する」との要望を頂戴し、感謝の念とともに責任の重さを痛感しました。

四国センター一般公開

2003年12月6日、四国センターでは一般公開を行いました。

本年度の公開は隣接する香川最大のイベント会場のサンメッセ香川で開催された「かがわ県産品フェスティバル2003」に合わせ開催したため、家族と共に楽しめる見学型公開実験を中心としたプログラムを用意しました。また、産総研が開発し、ギネスが癒し効果世界一と認定したアザラシ型ロボット“パロ”の展示デモを行い、“パロ”との記念写真をオリジナルうちにプリントして差し上げました。“パロ”の効果は絶大で、そばから離れない小学校低学年の女の子や、柔和な笑顔のお年寄りの姿が印象的で、癒し効果を垣間見た感がしました。



今回の公開の目的は地域住民に四国センターの存在を再認識してもらうことでしたが、300人余りの来場者があり、その目的が十分に達せられた意義ある公開となりました。

第2回「持続可能な消費」国際ワークショップ開催

2003年12月12日～13日、東京国際展示場国際会議室において（社）未踏科学技術協会、産総研ライフサイクルアセスメント研究センターが主催する第2回「持続可能な消費」国際ワークショップが開催されました。



エコプロダクツ2003展の関連行事という位置づけで、共催として、国連環境計画（UNEP）、グリーン購入と持続可能な消費国際フォーラム実行委員会、日本経済新聞社などが名前を連ねました。

「持続可能な消費に向けた指標開発とその活用に関する研究」プロジェクトの中で、「持続可能な消費」の具体例を収集し、研究の枠組みを考えるために、2003年3月に東京で第1回国際ワークショップを開催しましたが、今回は、その後のプロジェクトの進捗状況を報告するとともに、「持続可能な消費」の実践に向けてどのように取り組むべきかを議論し、275名の参加者による積極的なディスカッションが行われました。特にアジアからはフィリピン、インドの現状報告と課題が報告され、アジアでの持続可能な消費の難しさが浮き彫りにされました。



産総研一般公開のお知らせ

■東北センター

日時：2004年2月19日(木) 10:00～16:00
場所：〒983-8551

仙台市宮城野区苦竹4-2-1

問い合わせ先：

東北産学官連携センター

TEL 022-237-5218

E-mail t-koho@m.aist.go.jp

●研究紹介・展示コーナー

■メンブレン化学研究ラボ

パラジウムと水素が拓く新たな合成反応
ビールを入れるとウォッカがでてくる…不思議な膜
有害イオンを目で測ろう！

200万枚の結晶を重ねた厚み0.03mmの膜

■超臨界流体研究センター

二酸化炭素からプラスチック原料を創る

水でナノ粒子

ポンプなしで流体を循環させる

■基礎素材研究部門

原子レベルで平坦化！金属材料の長寿命化と環境負荷低減
光触媒用3次元Si/SiC フィルター

■セラミックス研究部門

光触媒を使って色水を透明にしよう！

ナノメートルサイズの細孔を利用した調湿建材(セラミックス)

●移動地質標本館

東北地方の鉱石・化石

宮城県を活構造と地震

●「東北産学官連携研究棟(とうほくOSL)」

■紹介

■環境にやさしい「とうほくOSL」

「とうほくOSL」は、自然エネルギーを利用する管理
設備を備えた環境と経済性に配慮した建物です。本施設
の特徴を模型と展示パネルでご紹介します。

同時開催

「東北産学官連携研究棟(とうほくOSL)」

■オープン記念式典

14:00-14:50 記念式典

15:00-16:00 記念講演「科学技術創造立国への課題」

阿部 博之氏

(総合科学技術会議議員/東北大学名誉教授)



新刊のご案内

産総研シリーズ

エコテクノロジー

— 化学物質のリスク削減技術 —

有害化学物質の排出低減技術、浄化・修復技術および計測技術について、環境管理研究部門で現在進めている研究を紹介。また有害化学物質を取り巻く背景や一般的な対策技術について解説しています。



- 独立行政法人産業技術総合研究所 環境管理研究部門編
- 丸善株式会社 発行
- 本体価格 1,500円+税
- 2004年3月上旬発売予定

目次

- 第1章 我々を取り巻く環境問題と化学物質のリスクと管理
 - 1.1 環境問題の変遷
 - 1.2 有害化学物質とは
 - 1.3 化学物質によるリスクの削減
- 第2章 公害問題とその対策技術
 - 2.1 従来型公害問題
 - 2.2 有害化学物質対策の現状
 - 2.3 環境計測技術の現状
 - 2.4 環境評価・対策の新展開に向けて
- 第3章 最新の化学物質リスク削減技術
 - 3.1 太陽光や電灯の光でできる空気の浄化
 - 3.2 稲妻を利用した有害大気汚染物質の浄化技術
 - 3.3 電子レンジを利用したガスの回収
 - 3.4 ディーゼル排ガスをきれいにする
 - 3.5 微生物の働きで窒素と有害化学物質を同時に処理する
 - 3.6 オゾン利用による快適水環境の創造
 - 3.7 資源として重金属を回収できる排水処理
 - 3.8 環境を浄化する植物
 - 3.9 マイクロバブルの不思議な力
 - 3.10 有害化学物質を手軽に測る
 - 3.11 環境診断——名医のツール

既刊 産総研シリーズ 〈本体価格 1,500円+税〉

- デジタル・サイバー・リアル — 人間中心の情報技術 —
- 光 — 未来への新たな挑戦 —
- ポストゲノム — ライフサイエンス最前線 —
- 知能システム技術 — コンセプト志向の発想 —
- エネルギーエレクトロニクス — 新しい電力供給システムを創る —

火山

— 噴火に挑む —

目次

- 第1章 活動的火山の研究とは
- 第2章 有珠火山
 - 規則正しい噴火活動とそのメカニズム —
- 第3章 三宅島火山
- 第4章 進化する富士山
- 第5章 雲仙科学掘削：活火山の解剖



全国の書店でお買い求めください